



TITLE:

学問が取り組む<<究極の選択>>？

AUTHOR(S):

大庭, 弘継; 高木, 裕貴; 玉澤, 春史; 河村, 聡人; 鈴木, 美香; 大園, 誠; 菊地, 乃依瑠; 小松, 志朗; 千知岩, 正継; 中村, 長史

---

CITATION:

大庭, 弘継 ...[et al]. 学問が取り組む<<究極の選択>>？. 京都大学アカデミックデイ2019: 研究者と立ち話（ポスター/展示） 2019: 36.

ISSUE DATE:

2019-09-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/244435>

RIGHT:



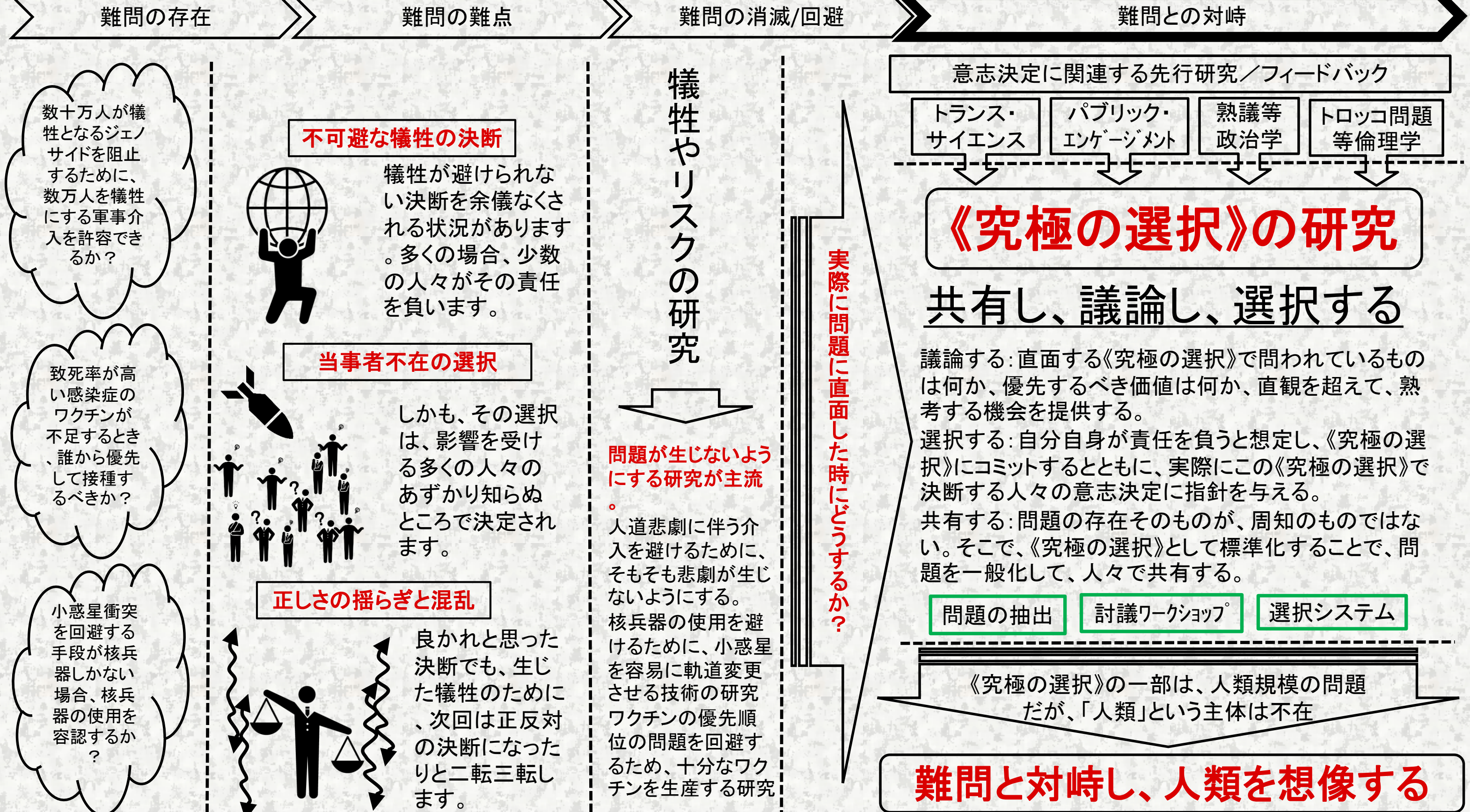
## 《究極の選択》を研究する？

《究極の選択》では、どの選択をしても、大切な何かが損なわれてしまいます。私たちは日ごろ、国際政治や、医療・生命倫理、天文学を研究し、こういった問題に直面しています。「研究してるんだったら、答えがあるんじゃない」と返ってきますが、実際には、事実関係の調査にとどまることも多いのが実情です。または「自分だったらこうする」までは言えても、「みんなこうしろ」とまではなかなか言えません。

ここに示す《究極の選択》は、あなた自身も含め多くの人々が影響を受ける重要なものであり、**少数の政治家や専門家だけに任せておけば済む問題ではありません**。みなさん一人一人の熟慮や判断を要するものばかりです。そればかりか、時に国境を越えた社会として意志決定しなくてはいけないグローバルな《究極の選択》もあります。私たちは、**《究極の選択》に相応しい意志決定の方法を探究**しています。

苦々しさをかみしめて、皆さんにとって、**何がよりマシな選択**でしょうか？

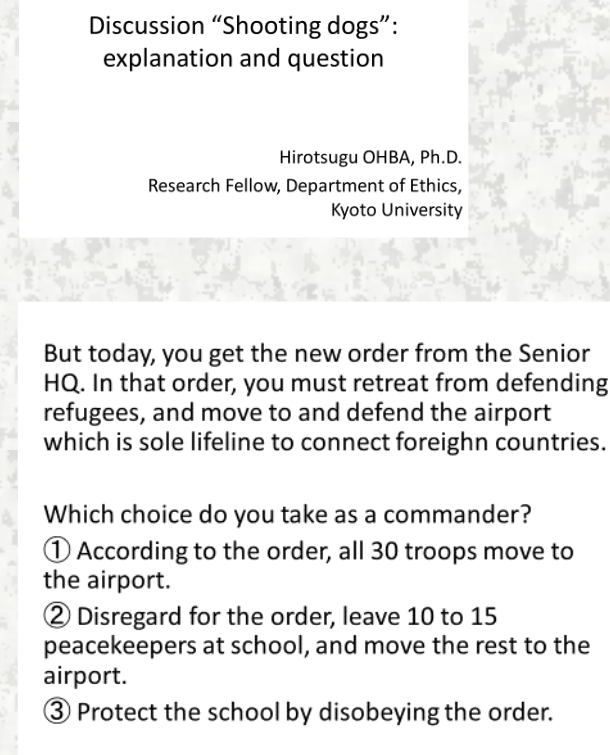
## 《究極の選択》研究の概略



## これまでの《究極の選択》



アカデミックデイ2016(2016年9月)  
人道的介入の是非に焦点を当てた報告。



ルワンダのPIASS大学での調査(2017年7月)。ルワンダ人学生、周辺国留学生、日本人留学生を対象に実施。



アカデミックデイ2018(2018年9月)。人道的介入(国際政治)、パンデミック・フル(公衆衛生)、太陽フレア(天文学)での《究極の選択》を提示。



宇宙ユニット・シンポ(2019年2月)。小惑星衝突回避の核兵器使用の問題を提示。

## 研究の展開構想

まだココ

●パイロット段階  
研究チームで《究極の選択》を提示し、選択結果と意見を収集し、改善する。

●実用段階  
《究極の選択》の収集とレビューの標準化を行い、熟議の方策を練る。

●自律展開段階  
多くの人々自ら《究極の選択》を提示し、決定していく。人類共通の課題を机上に載せる。

# 学問が取り組む《究極の選択》？

### 人道(支援)原則(Humanitarian Principles)

- ・人道原則: どんな状況にあっても、一人ひとりの人間の生命、尊厳、安全を尊重すること。
- ・公平原則: 国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別も行わず、苦痛の度合いに応じて個人を救うことに努め、最も急を要する困難に直面した人々を優先すること。
- ・中立原則: いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的、思想的な対立において一方の当事者に加担しないこと。
- ・独立原則: 政治的、経済的、軍事的などいかなる立場にも左右されず、自主性を保ちながら人道支援を実施すること。

外務省HP「緊急・人道支援の基本概念」  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jindo/jindoushien1\\_1.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jindo/jindoushien1_1.html)  
その他参考:  
[https://www.unocha.org/sites/dms/Documents/OO-M-humanitarianprinciples\\_eng\\_June12.pdf](https://www.unocha.org/sites/dms/Documents/OO-M-humanitarianprinciples_eng_June12.pdf)

### 「難民に関するグローバル・コンパクト(the Global Compact on Refugees)」(2018年12月)

- 4つのポイント
- ▶ 難民受け入れ国の負担軽減  
大量の難民の移動は、受け入れ側のインフラや公的サービスに大きな影響を及ぼします。人道支援と開発援助が早い段階から連携することで、難民と受け入れ国・地域双方への効果的な支援につながります。
- ▶ 難民の自立促進  
子どもや若年層への教育、医療サービスへのアクセス拡大はもちろん、その先の自立に向けた取り組みが重要です。将来の帰還を見据えた上でも、支援に依存しない自立した生活の実現は必要不可欠であり、受け入れ国・地域に貢献しうる人材育成にもつながります。難民に移動や労働の自由を与える政策の実行もカギとなります。
- ▶ 第三国定住の拡大  
第三国定住は、ふるさとへの帰還、庇護国における社会統合と並んで、恒久的な解決策の一つです。第三国定住の受け入れ数を増やすこと、さらに、家族が暮らす国での定住、人道ビザの発給、奨学生としての受け入れなど、第三国定住の枠にとどまらない柔軟な対応も求められています。
- ▶ 安全かつ尊厳ある帰還に向けた環境整備  
難民発生国の多くが、紛争の解決やさらなる混乱の回避、貧困対策、食糧安全保障の確保、インフラ整備など、困難な課題を抱えています。

UNHCR駐日事務所ホームページから引用  
<https://www.unhcr.org/jp/global-compact-on-refugees>

## 人道危機と難民問題

あなたの国からは遠い某国で内戦が勃発しました。某国の国民(総人口約2400万人)のうち、隣国に難民として逃れた560万人を除けば、大多数の国民が某国内で国内避難民として生活しています。ところが内戦の激化により、その一部が新たに脱出し、豊かな先進国であるあなたの国にまで逃れようとしています。その数は、100万人と予測されています。

問 この人道危機に対して、あなたは世論調査で、自国への難民受入れに賛成しますか？

- ① 逃れてきた難民をすべて受け入れる。
- ② 本当に困っている人々(子供など)を優先し、人数制限(10万人程度)をしたらう。
- ③ 難民の受け入れを拒否する。

※停戦の調停、人道支援、人道回廊(安全地域)の設定なども可能です。しかし、どの選択肢にも、利点・欠点があります。

### 対立軸の捉え方の例

難民の犠牲 対 国内の負担、人道主義 対 自国第一主義

### 難民問題の経済的負担

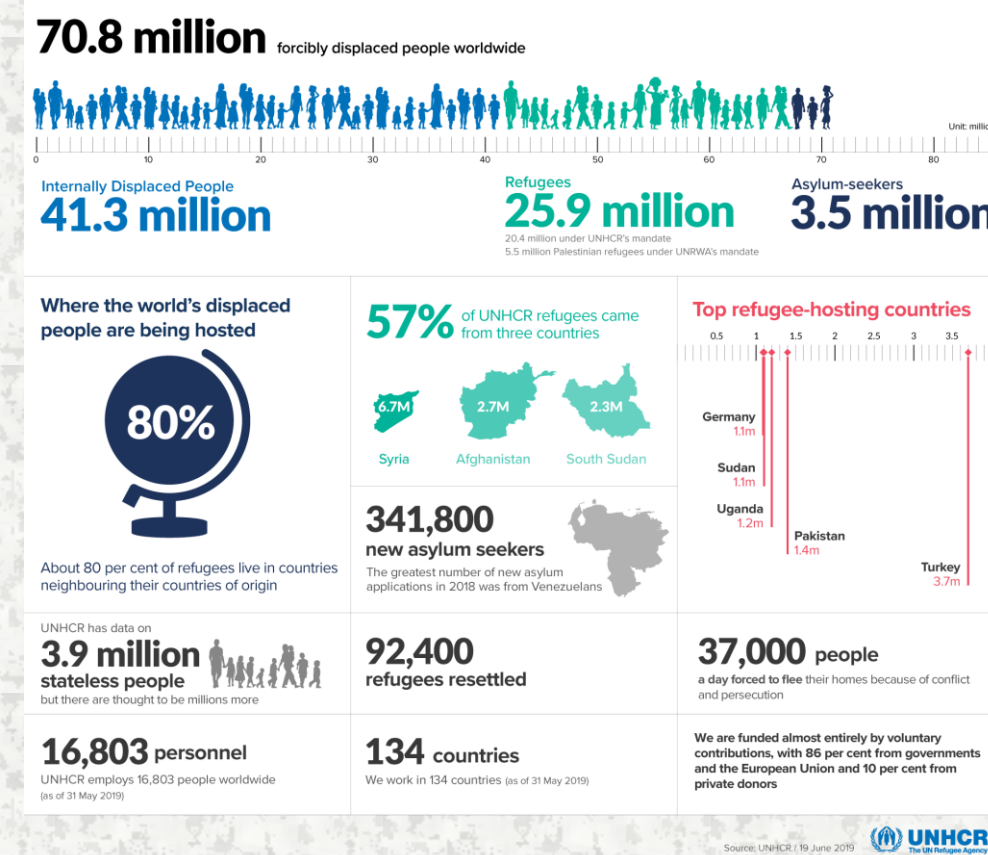
ドイツ、難民政策に過去最高の230億ユーロ支出  
<https://jp.reuters.com/article/germany-budget-refugees-idPKCN15R08I>

### 難民問題の困難さ

「現実問題として、難民の流入は受け入れ国にさまざまな深い影響を与える。国民の安全や社会のあり方など、影響を及ぼす範囲は広く、しかも将来的に禍根を残しうる。バリー・ブザンの概念を借りれば、「社会の安全保障(societal security)」を揺るがしかねない。国々が難民問題に慎重にならざるをえないゆえんだが、そのため理念との乖離や政策上の空白が生まれやすい。」(11頁)。

「首脳たちが採択した『難民及び移民のためのニューヨーク宣言』は美しい言葉に満ちている。国連機関やNGOによる唱導活動では難民の厳しい境遇が強調され、それゆえ人々の共感がかき立てられる。甘美な理想も生まれやすい。だが、EUの事例がすでに示すように、難民問題に「人道ロマンティズム」は通用しない。(15頁)。

葛田桂「難民問題の複合性」、『国際問題』662号、2017年6月(2017)  
[http://www2.iia.or.jp/kokusaimondai\\_archive/2010/2017-06\\_002.pdf#pnoiprint](http://www2.iia.or.jp/kokusaimondai_archive/2010/2017-06_002.pdf#pnoiprint)



### 難民等の現状

世界の難民等の総数: 約7080万人  
うち、国内避難民: 4130万人  
法的な「難民」: 2590万人

<https://www.unhcr.org/figures-at-a-glance.html>

注記 ※ご回答いただいた選択や意見から、個人が特定されることはありません。またご回答いただいた選択や意見は、記録されます。データは京都大学《究極の選択》研究ライトユニットにおいて、その研究のために使用されます。またご回答いただいたデータやご意見は、当ユニットメンバーによって分析および集計され、学会等や学術論文等、当ライトユニットのホームページで公表することがあります。

※《究極の選択》とは: 本報告において、「犠牲が避けられないとき、何を選ぶべきか」という問題意識のもと、下記のように限定的に用いている。(2019年9月15日現在)

・実際に存在する、またはありうる問題であること / 対処が必要であり、その選択が委ねられていること / どの選択肢を選んでも、犠牲や影響が大きいこと、人命のみならず、経済的打撃、将来への禍根などを含む。

※《究極の選択》の中でも、問題の「軽重」はある。時間軸で見ても、たとえば本報告は、「難民を見殺しにする」(いま) > 「身内の余命を縮める」(数か月後) > 「宇宙の軍拡による戦争犠牲者が出る」(近未来)と分類できます。今後、下記のような分類の軸を導入する予定である(検討中)。

・切迫しているか、時間的余裕があるか / 影響は、多数に及ぶか、少数か / 頻出するか、低頻度か / 既に生じたか、まだ生じていないか / 原理的に不可能なのか、現実的に不可能なのか など。

※もちろん、問いの設定のあり方や選択肢の妥当性は常に問題視される。しかし、問題設定や選択肢の妥当性を議論しつつも、選択肢決定するというプロセスもまた改善を模索していく必要もある。

※私たちの専門は、国際政治学、医療・生命倫理、天文学、科学技術社会論、倫理学など様々です。トピックも、人道的介入(人道危機)、近代日本政治思想、感染症(パンデミック)、医療(臨床)・生命倫理、サイエンス・コミュニケーション、天文学(太陽フレア)と多岐にわたります。今回は、特に答えを望んでいる専門分野の《究極の選択》から距離を取り、隣接領域における《究極の選択》を取り上げました。より幅広いテーマを吸収するための布石として、また各人本来の研究を明晰化するための参照項としても活用します。



